

児童文芸誌「赤い鳥」創刊100年 黎明期の童謡・童話・童画の世界



大正7年7月1日発行 創刊号

日時：2018年7月1日(日)
14:00~16:00 (13:30開場)
会場：日比谷図書文化館地下1階
日比谷コンベンションホール(大ホール)
定員：200名 参加費：1,500円
(事前申込順、定員に達し次第締切)

お申し込み方法

ホームページの申込フォーム、電話(03-3502-3340)、ご来館(1階受付)のいずれかにて①講座名②お名前(よみがな)③電話番号をご連絡ください。
※小学生以下のお子さまが参加される場合、保護者の同伴が必要です。

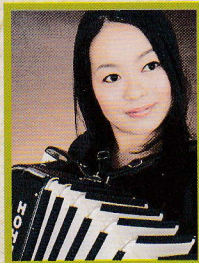
同伴者の方にも参加費が必要です。

お問い合わせ先/音楽の泉プロジェクト代表 小野清子
070-3321-1177 (9時~20時受付)

主催/音楽の泉プロジェクト 共催/千代田区立日比谷図書文化館



紙芝居「赤い鳥」
NPO法人はばたけ千早
語り部部会



せきたさらい (アコーディオン)
アコーディオンを中嶋正作に師事。幅広いジャンルをレパートリーとし、ソロの他様々なユニットで活動中。



真幸 操 (ソプラノ)
神戸女学院大学音楽学部卒業。オペラ、カンツォーネ、シャンソン、ジャズなど、いろいろなジャンルの歌で日本と豪州を回っています。



青山恵子 (メゾ・ソプラノ)
東京藝術大学声楽科及び大学院博士課程修了。声楽では日本で初の博士号取得。洋楽と伝統音楽の歌唱法の融合を研究し様々な作品に取り組む。



桜井春江 (朗読)
NHK日本語センター朗読サロン生。目白の鈴木三重吉旧居跡に建つ「ギャラリー赤い鳥」店主。図書館主催のおはなし会等で活躍中。



おのまり (朗読)
国立音楽大学声楽科卒業。元劇団四季団員。舞台出演やイベント企画等で活動中。

今もなお私達の心に残る児童文芸誌「赤い鳥」を創刊から百年のこの期に振り返り、当時掲載された童謡や童話の再現を試みます。大正7年夏目漱石門下の鈴木三重吉が子供を授かった事をきっかけに子供達に芸術性豊かな文学や音楽、絵画をと創刊した「赤い鳥」。そこから世界にも稀にみる子供の為の芸術文化が誕生しました。当日は創刊号で発表された芥川龍之介「蜘蛛の糸」の朗読と、新美南吉の代表作「ごんぎつね」を紙芝居付き朗読で、また歌は、童謡第一号の「かなりや」から「揺籠のうた」「この道」「からたちの花」などの代表的な曲を中心に、「あわて床屋」などの同詩異曲もはさみ、アコーディオンの伴奏でお届けします。どうぞ、お楽しみに！

司会・企画 小野清子 (東邦音楽短大・東邦音大総合芸術研究所修了)

